

分析結果報告書〔4～6〕（共通） 1 / 1

2.0 廃棄物（ばいじん）試料（溶出試験：検液（溶出液）の作成）

機関コード	
機関名	
電話番号	
国際的な認証等の取得（複数回答可）	1. ISO 9001～9003 2. ISO 14001 3. ISO/IEC 17025(ガイト25) 4. MLAP 5. 環境省が実施するダイオキシン類の請負調査の受注資格
分析担当者名	
分析担当者の経験年数（溶出試験）	()年
分析担当者の実績 （年間の溶出試験の試料数）	()

< 3回の併行のために下記の< 試料液の調製 >以降は1～3回で概略同様であり、1回目の条件を記入する >

< 試料液の調製 >

容器	種類	1. ポリエチレン瓶 2. ガラス瓶 3. その他 ()
	容量	() mL
試料（ばいじん）	量	() g
溶媒（水）	種類	1. 蒸留水 2. 巾交換水 3. 超純水 4. その他 ()
	量	() mL
	pH	()

< 試料液調製後の放置時間 >

試料液の調製から溶出操作（振とう） までの放置時間	()時間 注1)
------------------------------	-----------

注1) 試料液の調製後直ちに振とうした場合には0（ゼロ）時間とする。
時間単位で記入する（例えば、30分では0.5時間とする）。

< 溶出操作 >

容器の置き方 / 振とう方向	1. 横置き / 横振り 2. 横置き / 縦振り 3. 縦置き / 横振り 4. 縦置き / 縦振り 5. その他 ()
気温	() 注2)
気圧	()気圧 注2)
振とう機	()回/分
振とう回数	()回
振とう幅	()cm
振とう方法	6時間連続振とう

< 振とう後の放置時間 >

振とう終了からろ過（又は遠心分離） までの放置時間	()時間 注3)
------------------------------	-----------

注2) 振とう開始時の気温（室温）、気圧の概略値を記入する。

注3) 振とう後直ちにろ過した場合には0（ゼロ）時間とする。
時間単位で記入する（例えば、30分では0.5時間とする）。

< ろ過等 >

ろ過	実施の有無	1. 実施する 2. 実施しない
	ろ紙種類	孔径1 μmのガラスファイバーフィルターペーパー（GF P） 1. 東洋濾紙（アドバンテック東洋） 2. ワットマン濾紙 3. その他 ()
	メーカー	()
	型式	型式 () 記入例：例えば、東洋濾紙では「GS-25」
遠心分離	実施の有無	1. 実施する 2. 実施しない
	回転数	()回/分
	回転時間	()分
作成したろ液（溶出液）量		() mL

< 検液（溶出液）の作成後 >

溶出液作成から検定（各項目の分析） までの時間 注4)	
	()時間
	()時間
	()時間
溶出液の保存状況	1. 何もしない 2. 塩酸を添加 3. 硝酸を添加 4. その他 ()
保存処理	1. 冷暗所 2. その他 ()
保存方法	()
保存温度 注5)	約()
検定の方法（各項目の分析方法）と 分析結果	分析項目ごとに、分析結果報告書〔4〕（溶出試験：鉛）～分析結果報告書〔6〕（溶出試験：カルシウム）に記入する。

注4) 溶出液作成後直ちに分析に必要な量をはかり取った場合には、0（ゼロ）時間とする。分析項目ごとに概略の時間を記入する。

注5) 保存していない（溶出液作成後直ちに分析に必要な量をはかり取った）場合には、記入する必要はない。